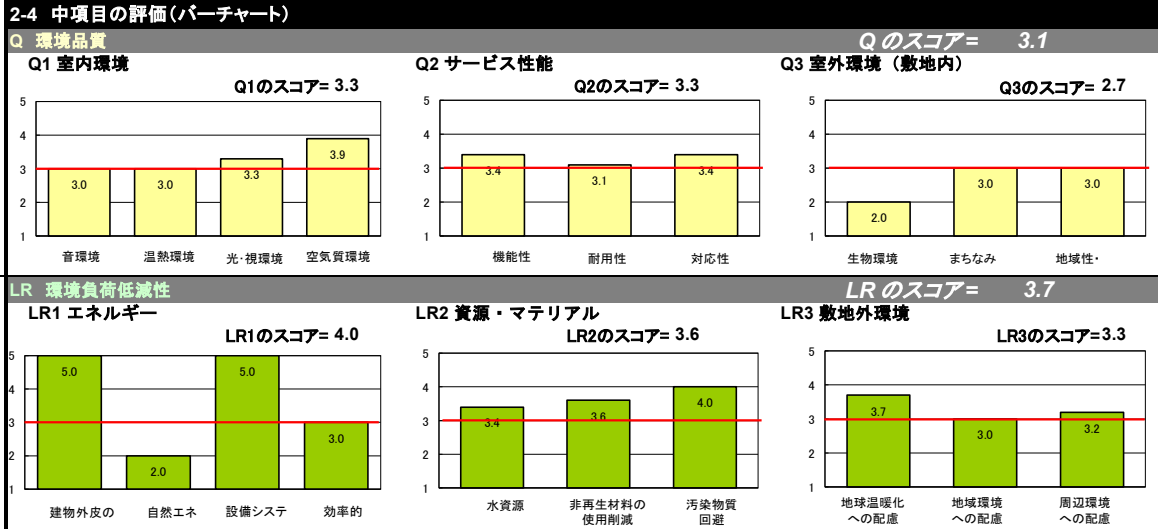
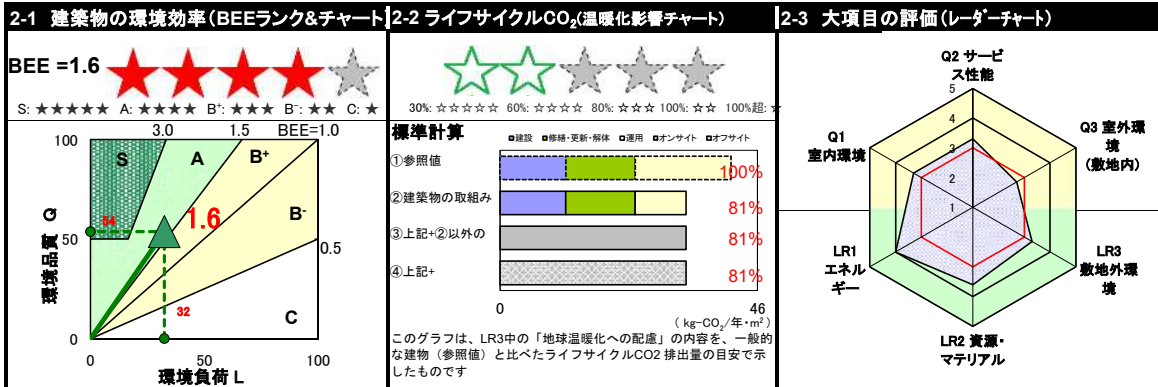


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西三河北部地区新設特別支援学校(仮称)	階数	地上2階
建設地	愛知県豊田市竜首町ハツロ河13-45(一部)、及び34、36、39	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内(市街化調整区域)	平均居住人員	321 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,700 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年2月 予定	評価の実施日	2024年12月24日
敷地面積	30,853 m ²	作成者	福島麻友子
建築面積	5,453 m ²	確認日	2025年1月10日
延床面積	7,478 m ²	確認者	三宅 伸幸



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.7	2.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 17.2 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.4	2.0
	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> 豊田市木(けやき)

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
西三河北部地区新設特別支援学校(仮称)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階												
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
		重点項目				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質												3.1		
Q1 室内環境								0.40			-	3.3		
1 音環境						0.1	3.0	0.15			-	3.0		
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.40			-			
1.2 遮音						0.4	3.0	0.40			-			
1		開口部遮音性能					3.0	0.30			-			
2		界壁遮音性能					3.0	0.30			-			
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	0.20			-			
4		界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	0.20			-			
1.3 吸音							3.0	0.20			-			
2 温熱環境						0.3	3.0	0.35			-	3.0		
2.1 室温制御						0.5	3.0	0.50			-			
1		室温				3.0	3.0	0.60			-			
2		外皮性能				3.0	3.0	0.40			-			
3		ゾーン別制御性				3.0	3.0	-			-			
2.2 湿度制御						3.0	3.0	0.20			-			
2.3 空調方式						3.0	3.0	0.30			-			
3 光・視環境						0.2	3.3	0.25			-	3.3		
3.1 昼光利用						0.3	4.2	0.30			-			
1		昼光率	教室昼光率 2.5%以上			3.0	5.0	0.60			-			
2		方位別開口						-			-			
3		昼光利用設備				3.0	3.0	0.40			-			
3.2 グレア対策						0.3	3.0	0.30			-			
1		昼光制御				5.0	3.0	1.00			-			
3.3 照度						3.0	3.0	0.15			-			
3.4 照明制御						3.0	3.0	0.25			-			
4 空気質環境						0.2	3.9	0.25			-	3.9		
4.1 発生源対策						0.5	4.0	0.50			-			
1		化学汚染物質	F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に採用			3.0	4.0	1.00			3.0			
4.2 換気						0.3	3.6	0.30			-			
1		換気量				3.0	3.0	0.33			-			
2		自然換気性能	教室床面積の1/10以上の面積の開口を確保			3.0	5.0	0.33			-			
3		取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33			-			
4.3 運用管理						0.2	4.0	0.20			-			
1		CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			-			
2		喫煙の制御	建物は全面的に禁煙			3.0	5.0	0.50			-			
Q2 サービス性能							-	0.30			-	3.3		
1 機能性						0.4	3.4	0.40			-	3.4		
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	3.0	0.40			-			
1		広さ・収納性				3.0	-	-			-			
2		高度情報通信設備対応				3.0	-	-			-			
3		バリアフリー計画	独自				3.0	3.0	1.00			-		
1.2 心理性・快適性						0.3	4.0	0.30			-			
1		広さ感・景観 (天井高)	各教室の天井高 2.7mを超える			3.0	5.0	0.50			-			
2		リフレッシュスペース				3.0	-	-			-			
3		内装計画				3.0	3.0	0.50			-			
1.3 維持管理						0.3	3.5	0.30			-			
1		維持管理に配慮した設計	①内装面は防汚性の高い仕上方法 ②床面は防汚性の高い建材 ③床面は適度な水を使用して洗浄可能 ④ほこりのたまりにくい設計 ⑤維持管理が大きく異なる床材を接近させていない ⑥建具下部 水切り設置 ⑦防錆対策 ⑧極力段差の無い設計			3.0	4.0	0.50			-			
2		維持管理用機能の確保					3.0	0.50			-			
2 耐用性・信頼性						0.3	3.1	0.31			-	3.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48			-			
1		耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			-			
2		免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-			
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.0	0.33			-			
1		躯体材料の耐用年数	②				-	3.0	0.23			-		
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔					-	3.0	0.23			-		
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.09			-		
4		空調換気ダクトの更新必要間隔		多湿系にステンレスダクト採用			-	4.0	0.08			-		
5		空調・給排水配管の更新必要間隔					-	3.0	0.15			-		
6		主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23			-		
2.4 信頼性						0.1	3.8	0.19			-			
1		空調・換気設備	②	熱源の分散、系統区分			3.0	5.0	0.20			-		
2		給排水・衛生設備		節水型器具、系統分類、受水槽蛇口			3.0	4.0	0.20			-		
3		電気設備					3.0	3.0	0.20			-		
4		機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.20			-		
5		通信・情報設備		光ケーブル、メタルケーブルなど、通信手段の多様化			3.0	4.0	0.20			-		

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高 3.9m以上		5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 0.16	3.0	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31				
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38				
1 空調配管の更新性	②			3.0	0.17				
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	まちなみへの調和、緑化、視点場からの良好な景観		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.55	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	2.0	0.20		-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.53	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制					-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.6
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水		節水器具を全体の半数以上に採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.6	0.63		-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	内装仕上げにリサイクル材を3種採用	3.0	5.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LGS+PB 容易に分別可能な仕上	3.0	4.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.0	0.22		-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料(PRTR法該当無し) SDSシート3種確認	3.0	4.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68		-	-	
1 消火剤				-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		バックスフレ임(ODP=0 GWP=1)		5.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率81%		3.7	0.33		-	-	3.7
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音	独自			3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自			-	-		-	-	
3 悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.60		-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	0.20		-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.20		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たす、広告物照明を使用しない		5.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

西三河北部地区新設特別支援学校(仮称)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.4	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19		
③ 敷地内の緑化					2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:17.2%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用					2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	豊田市木(けやき)	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 西三河北部地区新設特別支援学校(仮称)

計画上の配慮事項	
総合	田園、保全緑地、閑静な住宅街といった良好な環境に囲まれた敷地に、2階建ての大きな特別支援学校を計画。「家、まち、自然、そして地域へ」をコンセプトに、木材の積極的な活用やZEB水準の省エネ性能を確保した。特別教室を集約した「ものづくりラボ」は木造とし、内装には地域産材を採用するなど、温かみのある環境を実現。教室前に中庭を設け、外遊びの場と明るい室内環境を確保している。
Q1 室内環境	主たる部屋や廊下の天井面は、吸音性能のある仕上げ材を採用。十分な換気量の確保、給気と排気の十分な離隔距離の確保等、新鮮で清潔な空気室環境を実現。 F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用し化学汚染物質の排出を抑制している。
Q2 サービス性能	普通教室群は廊下型ではなく、ユニット型に近い平面形式を採用。教室近くにトイレや教材庫、面談室を設け、教員の目が届きやすく、児童生徒がコンパクトに基本的な生活ができる環境を計画。壁面保護として、木の腰壁を設置。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地周囲には緑地帯を設け、緑豊かな街並みの景観を形成。 外構の舗装は透水性仕様として、ヒートアイランド現象の抑制に配慮。
LR1 エネルギー	教室の窓など外部に面する窓ガラスの一部をLow-eガラスとし、断熱性能を向上。 BPI=0.55、BEIm=0.53 ZEB水準で環境負荷の抑制に努めている。 太陽光発電パネルを採用している。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器や節水コマの採用により水資源保護に配慮。 あいくる材の積極的な採用により、リサイクル、省資源化に配慮。
LR3 敷地外環境	敷地周囲には緑地帯を設け、景観形成や地球温暖化の抑制に配慮。 グラウンド周囲は緑地帯を設け、砂埃の飛散を防ぐとともに、砂埃の起こりにくいグラウンド舗装仕様を採用。
その他	建設土における建設発生土は、他の工事現場への搬入、再利用を図れるよう検討。